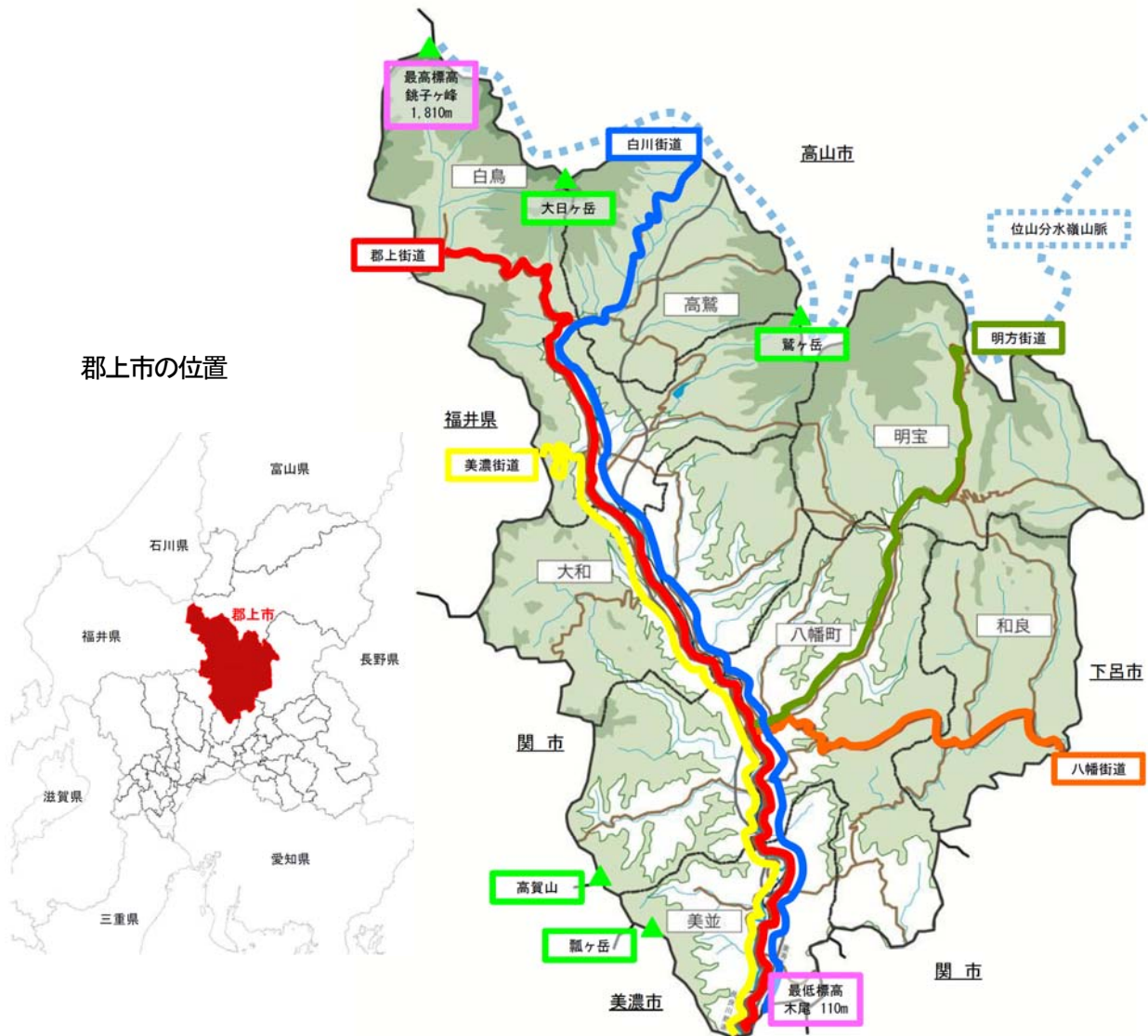


## 第1章 郡上市の歴史的風致形成の背景

### 1. 自然的環境

#### (1) 位置

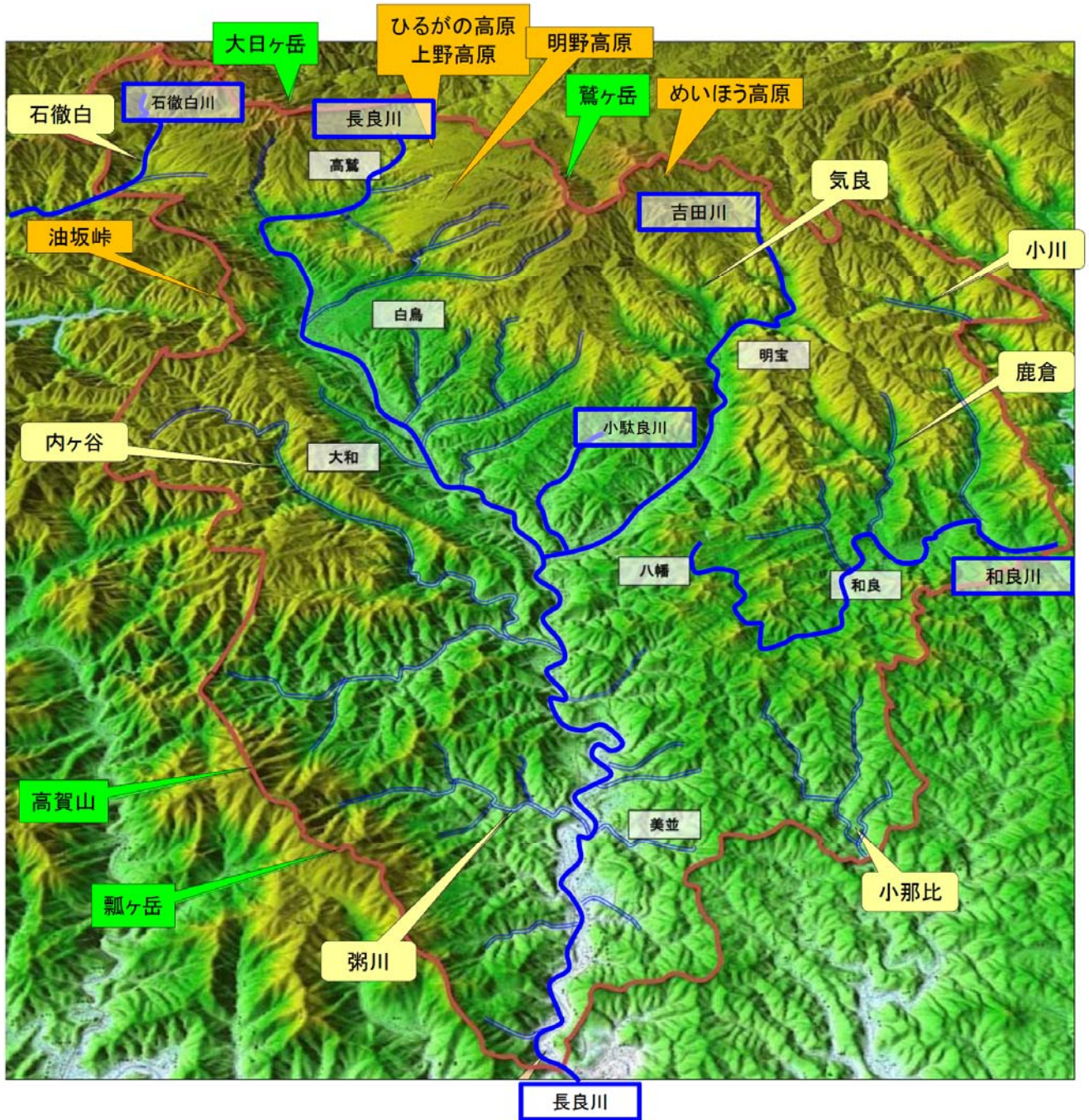
郡上市は、日本そして岐阜県のほぼ中央に位置し、東部は下呂市、南部は美濃市、関市、そして北部は高山市に接しており、地理的には太平洋側と日本海側を隔てる位山分水嶺の南側にあたる。飛騨高地の南斜面に位置している。位山分水嶺は長良川の源流を有する大日ヶ岳から鷲ヶ岳を通り、飛騨の中央を経て乗鞍岳に達している。また、最低海拔地の美並町木尾が110m、最高海拔地の白鳥町銚子ヶ峰が1,810mと、市域における高低差が大きい。



歴史的には令制国の美濃国の北部に位置しており、飛騨、越前、加賀に比較的近い。古くより長良川に沿って岐阜から北上し、八幡町を抜け、これら諸国へ通じる街道として利用されてきた。主要街道としては、岐阜から八幡町へ至る郡上街道、白鳥町から九頭竜川に沿って福井に至る美濃街道、庄川に沿って高岡に至る白川街道などがあげられる。これら諸街道の交差する場所にある八幡町と白鳥町は、山間の集落ながら交通の要衝としての役割を果たしてきた。

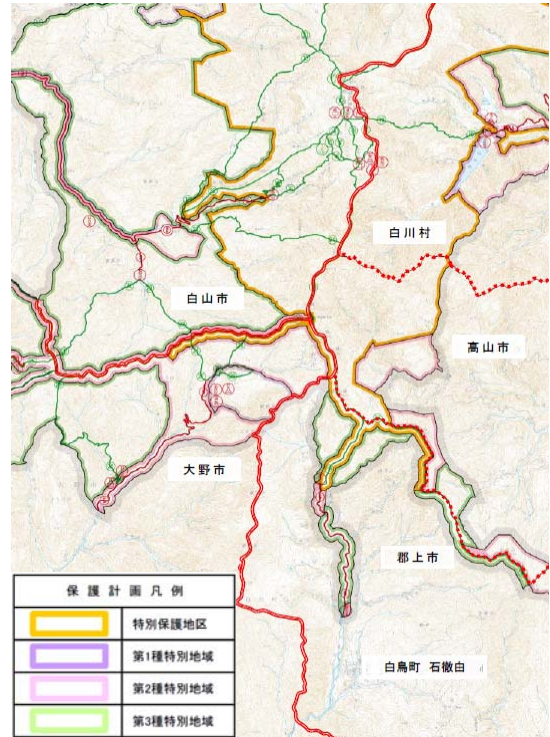
(2) 地形・地質・水系

郡上市の地形を広域的にみると、北部には高鷲町にひるがの高原や上野高原、明宝の水沢上一帯にめいほう高原が広がっている。そして、市内を南北に流れる長良川、郡上市八幡町の市街地を東西に横断する吉田川、小駄良川のほか、和良川、石徹白川などの一級河川は合計 24 本である。郡上市の主要河川の長良川は、高鷲町の「かます谷」から始まり、水量を増しながら白鳥町、八幡町、そして岐阜市を経て伊勢湾に至る。



郡上市の標高、河川の位置

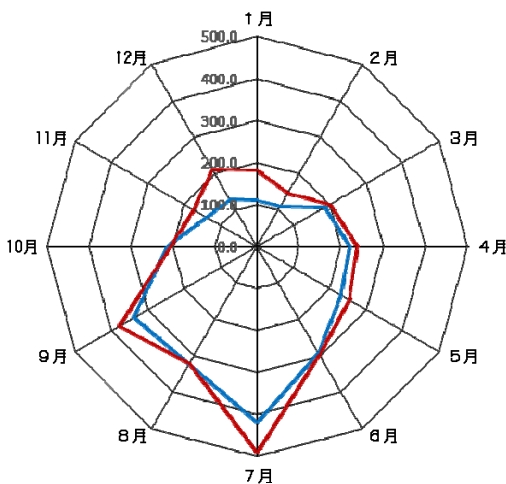
白鳥町から八幡町までの河川の流れは比較的緩やかで、河岸段丘と谷底平野が発達しているが、八幡町から南隣の市である美濃市にかけては、やや峡谷状となり、様相を異にしている。また、白山が石川県白山市と岐阜県大野郡白川村にひろがり、御前ヶ峰（標高2,702m）、大汝峰、剣ヶ峰、やや南に離れて別山が聳える。白山山系は、太平洋側の長良川、日本海側の手取川、九頭竜川、庄川の水源地となっている。白山国立公園は、白山の主峰である御前ヶ峰を中心に富山、石川、福井、岐阜の4県にひろがり、およそ東西20km、南北40kmにわたり、白山国立公園に指定されている。特別天然記念物に指定される石徹白スギ自生地は特別保護地区に指定されている。山林面積は91,804haと市域の約90%を占めており、管理の内訳は国有林3%、県市が管理する公有林9%、私有林9%となる。山林面積の50%が人工林であり、樹種別では針葉樹のスギ27%、ヒノキ27%で、ナラ等の広葉樹が40%となっている。



白山国立公園指定状況図

### 3) 気象

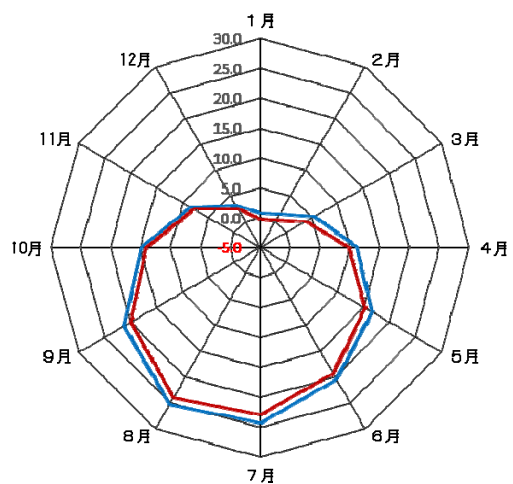
郡上市南部は美濃地方に、北部は飛騨地方に属し、南北約52km、海拔差で約1,700mあることから、気候・気温ともに域内でも一様ではないことが多い。夏期は全般的に南東の季節風により温暖で雨の多い太平洋岸気候となる。冬期は南北で大きく分かれ、北部（白鳥町長滝観測所）は北西の季節風のため全国でも有数の豪雪地帯となり日本海側気候の特徴が見られる（月別降水量グラフ12月・1月参照）。また、南部（八幡観測所）は晴天が多く太平洋岸気候の特徴が見られる。



単位：mm

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
八幡	109.4	110.6	185.9	219.8	230.6	291.8	419.6	324.6	339.3	215.3	140.1	129
長滝	180.1	145.5	199.8	237.6	252.9	297.4	490.7	322.4	379.2	206.6	175	212

月別平均降水量の比較(1991~2020年:30年間) 八幡観測所・白鳥町長滝観測所



単位：℃

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
八幡	0.8	1.5	5.4	11.2	16.5	20.5	24.3	25.3	21.3	14.9	8.5	3.1
長滝	-0.2	0.3	3.8	9.8	15.3	19.3	22.9	24	20	14	7.9	2.4

月別平均気温の比較(1991~2020年:30年間) 八幡観測所・白鳥町長滝観測所

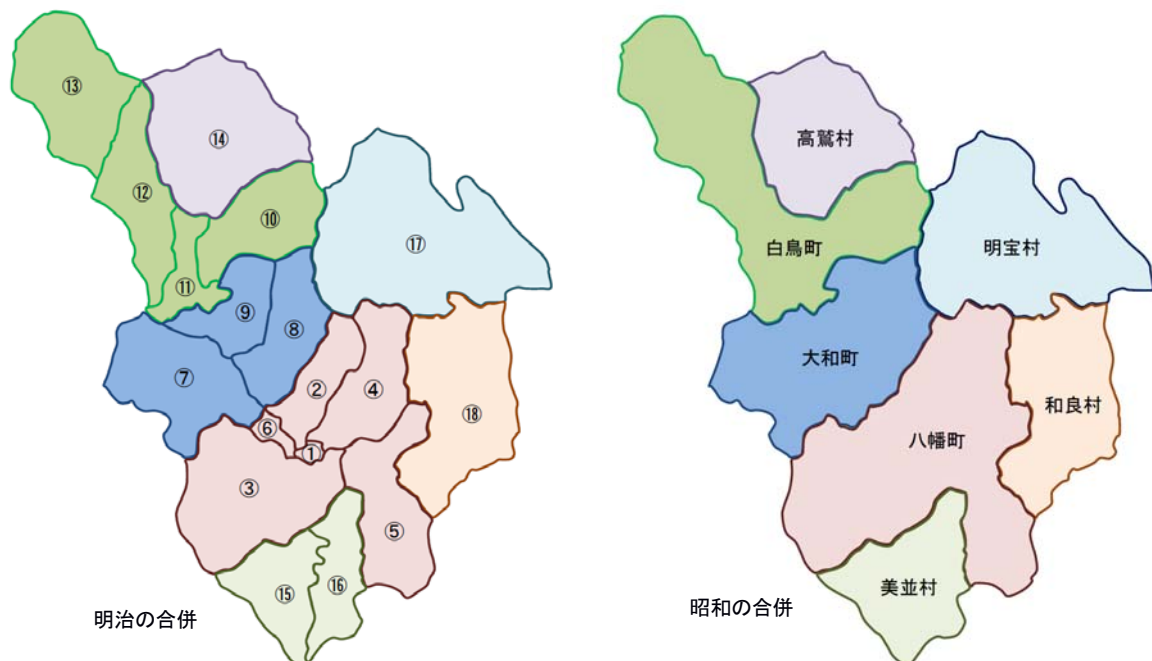
## 2. 社会的環境

### (1) 郡上市までの変遷

現在の郡上市の範囲は、明治30年（1897）には1町16村であったが、昭和29年（1954）の町村合併で2町5村となった。平成16年（2004）3月1日に郡上郡7か町村の八幡町、大和町、白鳥町、高鷲村、美並村、明宝村、和良村が合併し、現在の郡上市となった。

明治の合併	昭和の合併		郡上市 (平成16年3月1日)
八幡町（明治22年）①	八幡町（昭和29年）		
川合村（明治30年）②			
相生村（明治30年）③			
口明方村（明治30年）④			
西和良村（明治30年）⑤			
西川村（明治30年）⑦	大和村 (昭和30年)	有坂を編入（昭和32年）⑥	
山田村（明治30年）⑧		大和町（昭和60年）	
弥富村（明治30年）⑨			
牛道村（明治30年）⑩	白鳥町 (昭和31年)	福井県大野郡石徹白村を 編入（昭和33年）⑬	
上保村（明治30年）			
白鳥町（昭和3年）⑪			
北濃村（明治30年）⑫			
高鷲村（明治30年）⑭	美並村（昭和29年）		
嵩田村（明治22年）⑮			
下川村（明治30年）⑯			
奥明方村（明治30年）⑰	明方村（昭和45年）	明宝村（平成4年）	
和良村（明治27年）⑱			

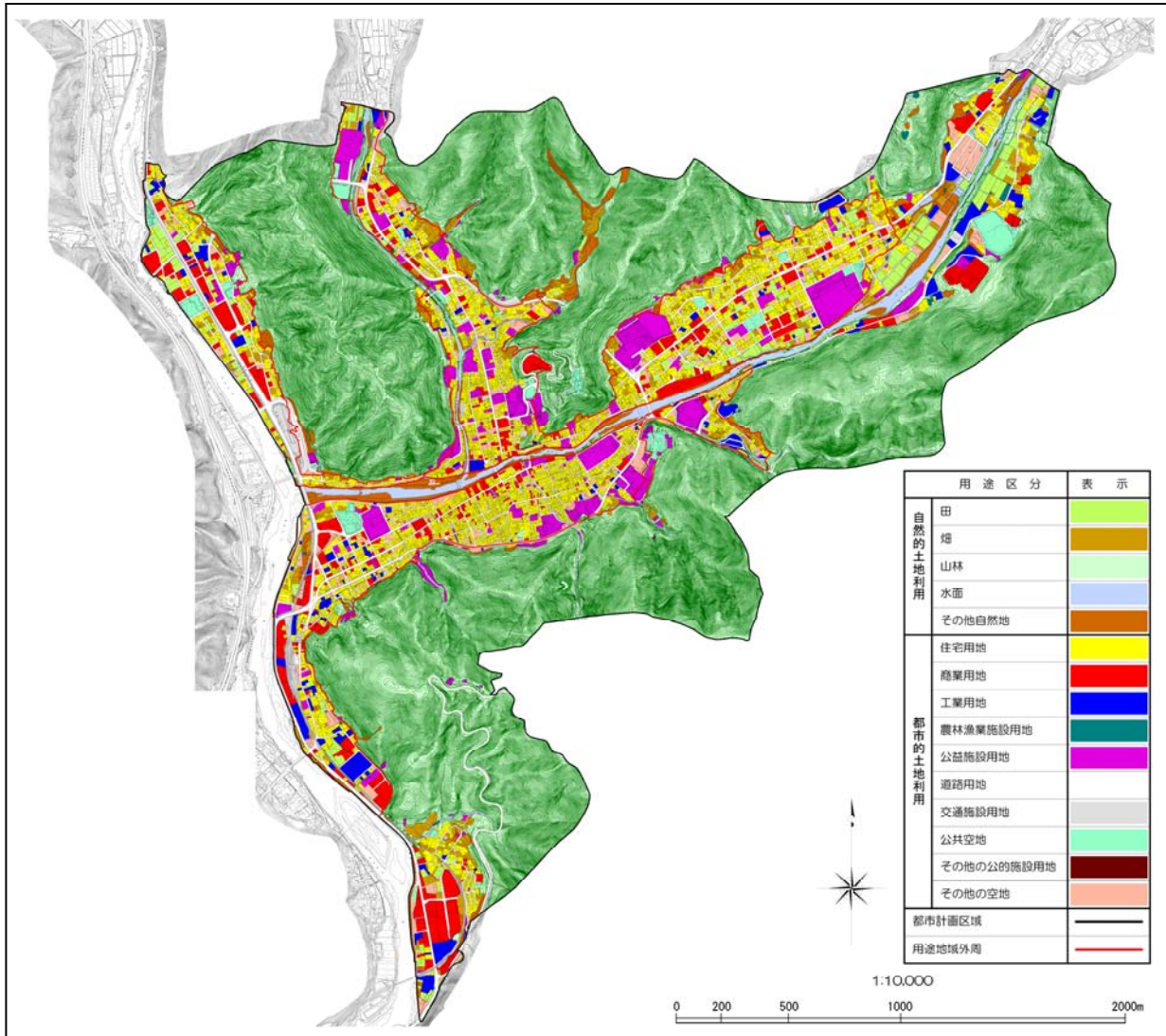
郡上市の合併前後の市町村の一覧



(2) 土地利用状況

郡上市の地目別土地面積（岐阜県統計年鑑 令和3年（2021））で地目構成をみると、市全体としては森林が89.1%、農用地2.8%、宅地は1.3%となる。

郡上市八幡町の市街地（以降は、「郡上八幡市街地」と記載）を含めた都市計画区域は、複数の河川に囲まれた狭小な平地に形成されているため、郡上市全体とは異なる地目構成となり、森林60.9%、農用地4.3%、宅地22.9%となる。



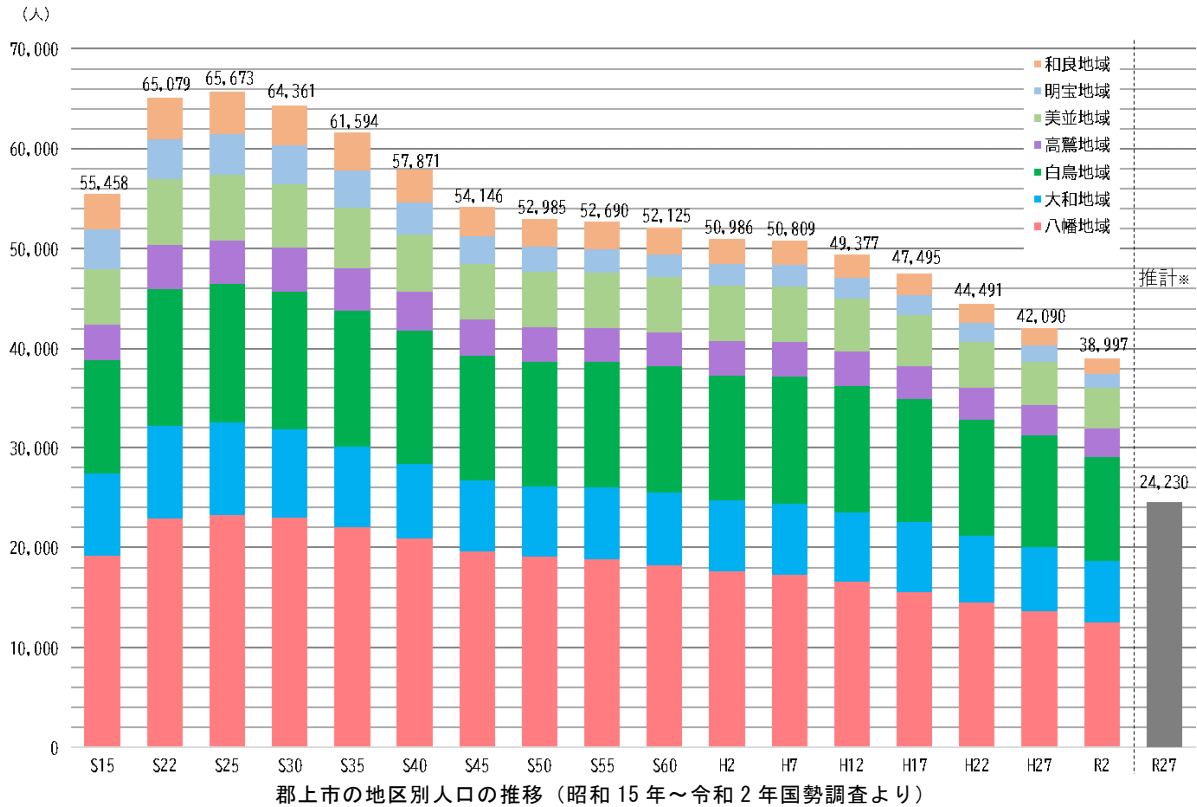
R1 都市計画基礎調査 土地利用状況

昭和63年（1988）と令和元年（2019）で詳細を比較してみると、道路用地・宅地用地が増加している。特に区画整理事業が行われた稲成、五町、口明方で商業用地や住宅用地が増加している。

建築物の用途別個数は工業系が減少し、商業系が微減。建築着工件数は減少傾向にある。令和2年度の調査では郡上八幡市街地に368棟の空き家を確認しており、駐車場も増加傾向にある。

### (3) 人口動態

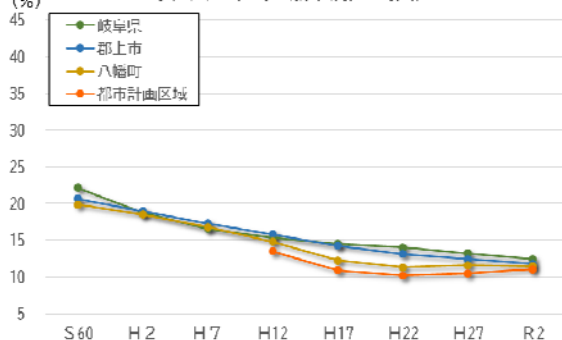
郡上市の総人口は 38,997 人、14,562 世帯（令和 2 年（2020）国勢調査）となり、7 地域の内訳は別表のとおり減少を続けている。



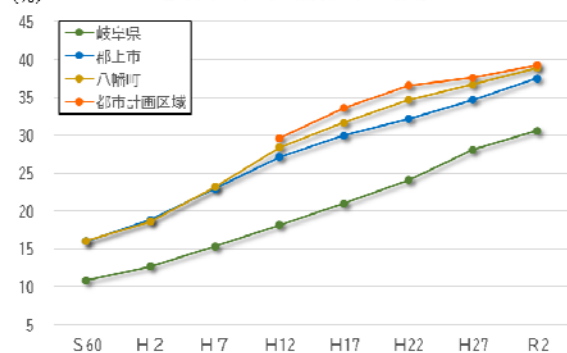
年齢階層別人口では、15 歳未満の年少人口率は令和 2 年（2020）の郡上市全体で 11.8%、八幡町が 11.4%となる。いずれも県平均の 12.4%と比べ少子化傾向が強い結果となっている。

65 歳以上の高齢人口は令和 2 年（2020）で郡上市が 37.5%で、八幡町が 38.9%となり、県平均の 30.6%を大きく上回る。平成 27 年（2015）との比較では郡上市で 2.8%、八幡町で 2.9%の増加を示しており、高齢化が一層進行している。

年少人口率（15歳未満）の推移



老年人口率（65歳以上）の推移



## (4) 交通

### ■バス

市内のバス運行状況は、路線バス 6 路線、高速バス 4 路線、自主運行バス 18 路線、デマンド型バス 5 路線を運航している。

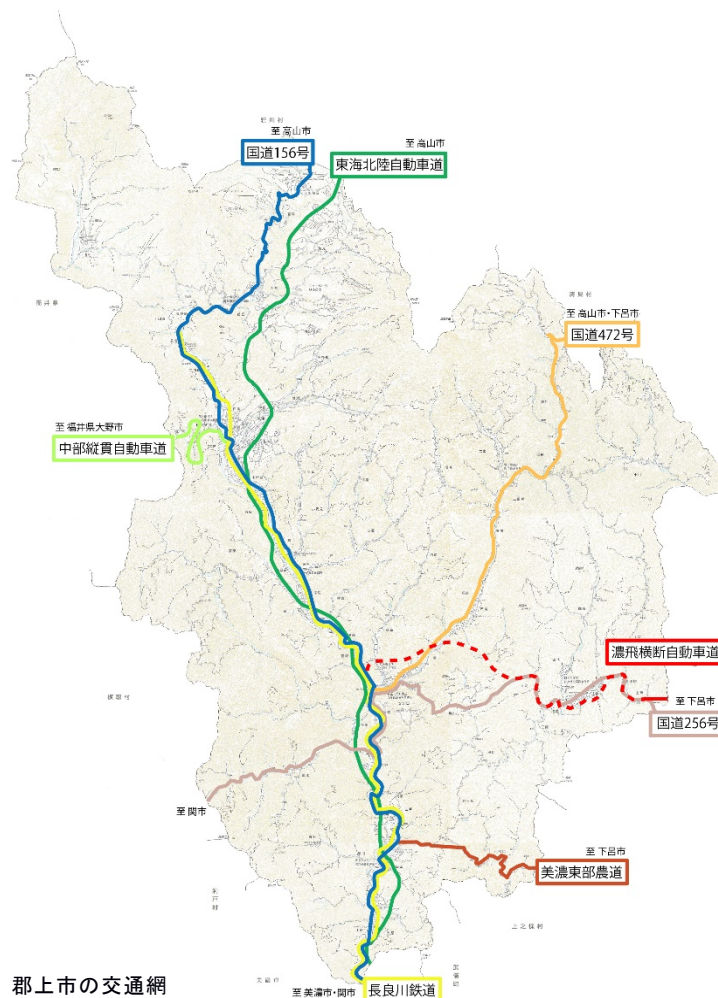
### ■鉄道

長良川鉄道が美濃太田駅（美濃加茂市）から北濃駅（白鳥町）間 72.1 km を運行し、郡上市には 38 駅のうち 28 駅があり、美並町、八幡町、大和町、白鳥町を連絡している。

### ■道路

平成 20 年（2008）に東海北陸自動車道が全線開通し、広域交通の利便性が飛躍的に向上し、白鳥インターチェンジから福井県方面へ中部縦貫自動車道が通り、福井県側の油坂出入口まで開通している。また、平成 24 年（2012）には郡上市と恵那市を繋ぐ美濃東部農道の整備が完了したほか、東海北陸自動車道とリニア中央新幹線岐阜県駅（仮称）を連絡する濃飛横断自動車道の整備が進められ、平成 28 年（2016）には郡上市和良町～下呂市金山町間（3.0km）で供用が開始された。そして、令和 5 年（2023）3 月には八幡町初納から八幡町入間間（堀越峠道路、5.9km）についても、国の権限代行業業として新規事業化された。

主要国道としては、岐阜市を起点として富山県高岡市に至る国道 156 号が郡上市を南北に縦断しており、郡上市八幡町の市街地から高山を連絡する国道 472 号や、岐阜市から郡上八幡市街地を経由し長野県に至る国道 256 号がある。



### (5) 郡上市の観光

郡上市は四季を通じてさまざまな観光資源に恵まれており、例年夏季の郡上おどり、白鳥おどり、白鳥の拝殿踊り、そして長良川でのラフティングや鮎の友釣り、秋季の紅葉、冬季のスキーをはじめ、四季を活かしたさまざまなイベント開催により毎年約600万人の観光客が訪れていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、統計データとして令和2年(2020)は約386万人と大幅に減少をしている。

観光地分類別でみると、新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、立ち寄り客の多い道の駅やドライブインでの買い物客が約124万人、キャンプ場やスキー場等で計約138万人、温泉約50万人と上記の3分類で全体の8割以上を占めている。

観光地分類別観光入込客数 (H28~R2) (単位:人)

	H28	H29	H30	R1	R2	H28とR2の比較
合計	5,879,949	5,687,278	5,512,300	5,646,546	3,860,034	66%
自然	396,591	405,185	419,695	376,111	243,431	—
文化・歴史	420,570	397,685	337,215	369,028	197,524	—
産業観光	559,847	528,481	473,519	412,798	278,155	—
スポーツ・レクリエーション	1,307,351	1,433,076	1,521,329	300,426	157,733	—
アウトドア	—	—	—	189,188	164,779	—
スキー・スノーボード	—	—	—	1,179,962	1,063,286	—
温泉	813,566	794,045	744,268	711,379	509,096	—
買物	1,878,984	1,625,006	1,570,074	1,659,754	1,246,030	—
行・祭事	388,200	371,400	370,700	378,900	0	—
イベント	114,840	132,400	75,500	69,000	0	—

※「観光庁観光入込客統計に関する共通基準」に基づき算出。

※R2より分類変更し、「アウトドア」、「スキー・スノーボード」を追加。

分類説明

- ・自然：鍾乳洞・滝 他
- ・文化・歴史：郡上八幡 他
- ・産業観光：食品サンプル製作体験・観光ヤナ 他
- ・スポーツ・レクリエーション：自然体験施設・ゴルフ場
- ・アウトドア：キャンプ場・釣り・ラフティング
- ・スキー・スノーボード：スキー場
- ・温泉：温泉施設 ※大浴場含む
- ・買物：道の駅 他
- ・行・祭事：郡上おどり・白鳥おどり
- ・イベント：郡上長良川夢花火・たかす雪まつり 他

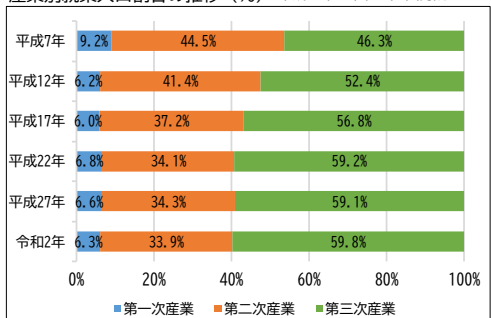
### (6) 現代の産業

市全体の就業者数は、人口同様に減少傾向にあり、令和2年度国勢調査でも、産業別構成で減少幅に差異はあるもののいずれも減少している。産業別大分類の構成比では、第1次産業6.3%、第2次産業33.9%、第3次産業59.8%になり、第3次産業の就業者が6割弱を占めている。また、岐阜県の令和2年度市町村民経済景観結果によると、総生産額の産業別構成では、製造業の割合が25.7%と最も高く、次いで建設業の割合が10.9%となっている。いわゆるサービス業はまともにと全体の5割強を占めている。

就業数と産業別構成(人) 平成22年・令和2年 国勢調査より

年次	第一次産業	第二次産業	第三次産業
平成7年	2,421	11,752	12,209
平成12年	1,495	9,963	12,624
平成17年	1,383	8,603	13,116
平成22年	1,440	7,267	12,621
平成27年	1,413	7,351	12,645
令和2年	1,279	6,901	12,182

産業別就業人口割合の推移(%) 平成22年・令和2年 国勢調査より



令和2年度 郡上市の経済活動別市町村内総生産 岐阜県「令和2年度市町村民経済計算結果」より

区分	実額(百万円)	構成比(%)
1. 産業	139,280	99.8
(1) 農林水産業	4,648	3.3
a 農業	2,540	1.8
b 林業	1,322	0.9
c 水産業	786	0.6
(2) 鉱業	415	0.3
(3) 製造業	35,902	25.7
(4) 電気・ガス・水道・廃棄物処理業	3,673	2.6
(5) 建設業	15,216	10.9
(6) 卸売・小売業	12,029	8.6
(7) 運輸・郵便業	6,307	4.5
(8) 宿泊・飲食サービス業	3,380	2.4
(9) 情報通信業	2,916	2.1
(10) 金融・保険業	4,204	3.0
(11) 不動産業	11,718	8.4
(12) 専門・科学技術・業務支援サービス業	4,464	3.2
(13) 公務	7,033	5.0
(14) 教育	6,550	4.7
(15) 保健衛生・社会事業	14,466	10.4
(16) その他のサービス	6,359	4.6
2. 輸入品に課される税・関税等	319	0.2
3. 市町村内総生産(=1+2)	139,599	100.0



### 1) 郡上の鮎

長良川や和良川の鮎は日本一ともいわれ、市の魚に選定されている。郡上の人々は美しい川を守り、鮎を育てる努力を重ねてきた。その結果、清流めぐり利き鮎会（高知県友釣連盟）では、河川環境に裏付けされた姿や香、味が評価され、平成14年（2002）、同21年（2009）、同26年（2014）、令和元年（2019）に「和良川の鮎」（木曾川水系）が、平成20年（2008）に「郡上鮎」（長良川水系）がグランプリに輝いた。



郡上の鮎

### 2) 三白産業

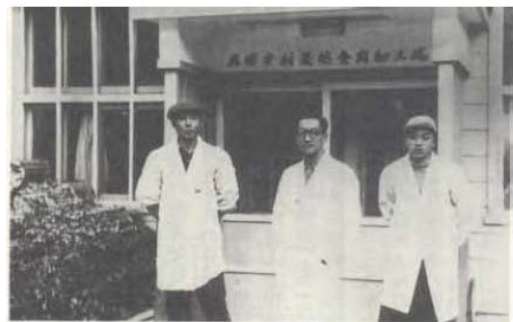
スキーリゾート、牛乳、大根の3つの白にちなんで三白産業という。冬の多雪、夏の冷涼な気候を活かした高鷲町の特色ある産業である。大根は昭和54年（1979）に天皇賞を受賞し、ひるがの高原大根として大きく生産を伸ばした。ひるがの高原牛乳はおいしい牛乳としてその名を高め、スキー・スノボは道路の整備がされたことで全国から多くの冬のスポーツ客を集めている。郡上市内には、白鳥町、大和町、明宝にもスキー場があり、観光資源となっている。



スキー場

### 3) ハムの製造

昭和28年（1953）に奥明方村（現郡上市明宝）で「明方ハム」の生産が始まった。奥明方村・明方村（9ページの村名変遷を参照のこと）の特産物にするために、多くの人々が生産や販売の工夫や努力を続けてきた。添加物や保存料を使用しない「手作り」による製法は、次第に全国に知られるようになった。今日では、明宝地域の第3セクターの株式会社が製造・販売をしている「明宝ハム」が、昔ながらの製法を守って、全国に販路を広げている。また、農業協同組合（JA）で製造・販売しているのが、「明方ハム」である。



ハム生産を始めた頃



明宝ハム（左） 明方ハム（右）

#### 4) 食品サンプル

郡上市で生産された多くの食品サンプルが国内や海外に出荷されている。昭和初期、八幡町出身の岩崎瀧三（いわさき たきぞう）（明治 28 年（1895）～昭和 40 年（1965））が大阪で食品サンプルの仕事をした。その後、材料や製造方法の工夫を重ねた。太平洋戦争後になって大阪や東京にも工場を造り日本の食品サンプル生産が本格的に始まった。近年は、サンプル作りが体験でき、また土産物としても人気がある。



食品サンプル

#### 5) 郡上紬

郡上では農家などが繭（くず繭）から紡いだ糸で紬を織っていた。戦後、宗廣力三（むねひろりきぞう）（大正 3 年（1914）～平成元年（1989））は昔からの地の織物である紬の再興に取り組んだ。昭和 22 年（1947）に紬織りの研究を始め、恵利蚕の飼育に取り組み、本格的な紬織りが始まった。同 27 年（1952）「郡上郷土芸術研究所」を那留ヶ野大平農場内に設立し、草木染めの研究も始めた。力三が「用の美」を求めた紬は「郡上紬」として普段着から工芸品まで多様な作品となった。陶芸家河井寛次郎から評価を得たり、また、販路開拓のため、作家白洲正子の銀座の染織工芸の店「こうげい」を訪問するなど、積極的に取り組んだ。

また、郡上紬の普及啓発のため、研究生を募集し、昭和 27 年（1952）から受け入れた。同 33 年（1958）に那留ヶ野から八幡町初音に帰り、同 35 年（1960）頃「郡上紬」を正式名称とした。力三は紬としての芸術性や技術の向上に尽力し、昭和 57 年（1982）に重要無形文化財「つむぎしまおり かすりおり 紬縞織・絣織」（各個認定）保持者（いわゆる人間国宝）に認定された。



郡上紬